

LEGEND

Bronco × Goldwyn × Barrett



マチムラ ベツス レジェンド バンビ (2産目)
所有者: 江別市 (株) 町村農場
母の父: レーガンクレストミスター ダーハム サム ET

JC レジェンド バンビ **GH-X♀**
JP3H55747

●写真撮影/ホルスタインマガジン社



一般社団法人
ジェネティクス北海道
〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目1番地 北農ビル13F
<http://www.genetics-hokkaido.ne.jp>

〈業務部〉
TEL(011)242-9645
FAX(011)242-9651
〈改良部〉
乳牛改良課
TEL(011)242-9646

●道北事業所 TEL(0166)57-6111 FAX(0166)57-6113
●道東事業所 TEL(0153)72-4554 FAX(0153)72-1325
●道央広域事業所 広域 TEL(011)375-4395 FAX(011)375-4411
道央 TEL(011)375-4422
●十勝北見事業所 TEL(0156)63-3838 FAX(0156)63-3839
●十勝清水種雄牛センター TEL(0156)62-2158 FAX(0156)62-2150
●道央種雄牛センター TEL(011)375-3939 FAX(011)375-2330

発行所 / 一般社団法人 ジェネティクス北海道

発行人 / 石村 正志 平成28年7月15日号

Vol.419

7月

SIRE



サイア

CONTENTS

- 2 現場レポート(乳) 日本初のISO認証牧場が提供する世界基準の人材育成と生乳生産 ~有限会社 別海町酪農研修牧場を訪ねて~
- 4 ☆食レボ☆「クリームテラス」
- 5 連載 はんしょく学 ノート 第10回 発情・排卵の同期化と定時授精(その1)
- 8 注目のカウファミリー 第31回 スクリーニング ビジョン オー ヘイダ VG-88
- 10 新規種雄牛の紹介(肉)
- 11 顕彰報告
- 12 2016年 北海道ブラックアンドホワイトショウ ~全共の感動を、もう一度~
- 15 お知らせ / AI講習会合格者



「草と反芻」

画:富田 美穂 HP「牛の木版画と絵画」<http://miho-tomita.jimdo.com/>

ブログ「うしのつむじ」<http://usinotomuji.blog28.fc2.com/>

日本初のISO認証牧場が提供する 世界基準の人材育成と生乳生産

～有限会社 別海町酪農研修牧場を訪ねて～



酪農日本一の北海道別海町に、全国から「酪農をしたい!」という人材を募集して、酪農に関するノウハウをゼロから授けて、新規就農をサポートする一軒の牧場があります。今回ご紹介するこの牧場——有限会社別海町酪農研修牧場は、さらに日本で初めて国際標準化機構(略称ISO)によって認証された牧場でもあります。牧場が提供する人材育成法と生乳生産について、吉田達夫場長にお話を伺いました。

1. 「酪農日本一」の別海町と酪農研修牧場

羽田空港から飛行機と車を乗り継いでわずか2時間弱の大草原が広がる町で、北海道の東部に位置し、オホーツク海に面する大規模草地酪農を営み、町の約半分は牧草地で、その面積は63,000ha、町人口(1.5万)



別海町 酪農研修牧場入口

の7倍の乳牛約11万頭を抱え、年間生乳生産量47万トンを誇る、まさに酪農日本一の町です。別海町酪農研修牧場は平成8年12

月に設立し、今年末で20周年を迎えます。現在牛340頭(うち経産牛190頭)、牧場草地(放牧地を含む)186ha、平成27年度は1,877トンの生乳を出荷しました。研修施設は、家族経営モデルのタイストールタイプの牛舎(60頭飼養)と、大型経営志向のフリーストール牛舎(154頭飼養)、それに付随する農業機械や牧草地等が完備されています。指導員は4名、さらに、農業試験場、農業改良普及センター及び家畜保健衛生所等12団体からなる「酪農研修牧場支援協議会」と、別海町内の研修生受入農家が支援しており、座学研修や農家研修を実施しています。

2. 日本初の国際規格ISO認証牧場

ISO認証制度とは、品質マネジメントシステムなどにおいて、認証機関により「国際標準化機構(ISO)」に策定された国際規格に達したかを審査し、適合していればその組織を登録し、公表する制度で、主に製造業などで導入されているものです。

当牧場は、「生乳生産」(ISO2000:9008)と「人材育成」(ISO9001)の二つの項目において、平成16年に日本で初めてISO認定を取得しました。

「生乳生産」については、「乳成分」と「乳質」に品質目標を設定し、これを達成するために、草地管理から繁殖管理、さらに搾乳方法まで、生乳生産に関わる全ての手順がISOの規格に基づいてマニュアル化しました。この厳しいマニュアルに従って生産した生乳の品質には自信を持っています。生乳は(株)べつかい乳業興社で加工され、別海町の学校給食への提供と、地元スーパーや生協で販売しています。

「人材育成」においては、学ぶ内容をISO基準に基づいてマニュアルを作成しました。研修課題と目標を1年ごとに設定し、研修者と指導員が、達成度や課題点等を共有して研修を進めるので、酪農作業に未経験の方でも安心して研修を受けることができます。



第1牛舎(つなぎ飼い牛舎)



第2牛舎(フリーストール)



自信を持ってお薦めする乳製品

3. 研修生はどのようにして研修を受けるのでしょうか?

研修期間中は、安心してしっかりと研修出来る為に生活の保障をしています。まず、(有)別海町酪農研修牧場の社員として、原則3年間の研修期間を過ごします。子育て支援のため牛舎(事務所)に保育室を完備しています。

研修内容は、1年目に酪農の基礎的な知識・技術・作業全般を習得し、2年目に自立可能な経営能力を養うために専門知識や応用力の習得を目指します。3年目は、就農準備のための農家研修や就農時に計画作成、さらに事業申請が中心となります。研修期間は原則で3年間ですが、酪農経験がある又は力量の程度により研修期間が短縮することも出来ます。

研修終了後、新規就農の際に、研修生が受けた研修内容やその到達度に関する資料を持って行きますので、就農先でもその資料を基に、関係機関がサポートしてくれます。

～ある日の研修生のスケジュール～

4:00～ 7:00	搾乳、給餌、パドックへ牛出し、除糞、子牛管理等
7:00～10:00	朝食及び休憩
10:00～12:00	牛舎内清掃、給餌、パドックからの牛入れ
12:00～15:00	昼食及び休憩
15:00～18:00	搾乳、給餌、ベッドメイキング、子牛管理等
18:00～18:30	ミーティング 1日の研修作業終了
20:00～30分程度	乳牛管理状況確認(夜見回り-男性)

4. 研修生の受け入れ実績と新規就農実績を教えてください

平成28年度現在、6組計11名の方が研修されています。平成9年から現在まで、86組の研修生を受け入れました。一番多いのが北海道で9組(18名)、次に埼玉県と東京都のそれぞれ7組、そして神奈川県で6組です。また、72戸の新規就農を果たしました。うち、別海町で66戸、標津町で3戸、中標津町で1戸、管外で2戸でした。



研修員と研修指導員との集合写真

【最後に】

取材中、研修生の方にもお話を伺いました。【研修を始めたきっかけ】については、「北海道へのあこがれと自分で物を作ってみたかったから」、「夫の熱意に絆されて、やって来ました」、「実家が元酪農家でもう一度やってみたい」等様々。

そして、【今後の目標は?】という問いに、「放牧主体でのんびり酪農」、「牛たちが良かったと思ってもらえるような、牛も人も幸せになれる牧場づくり」、「つなぎ牛舎で80頭搾乳を目指したい」という答えを頂きました。研修生の皆さんの目は、キラキラと輝いていました。

私は、愛知県から「いつかは新規就農を」という気持ちで、十数年前に北海道にやって来ました。今回の取材で、あの頃の気持ちが甦ってきてとても清々しい気持ちになりました。

新規就農された研修生たちにとって、最初に思い描いていたものと違うことも多々あるかもしれませんが、研修を始めたきっかけを思い出しながらがんばって頂きたいです。微力ながらこの取材を機に研修生のみなさんを応援していきたい、また、今度は就農された牧場にも取材に行ってみたく思いました。

今回、取材にご協力いただいた吉田場長をはじめ、研修牧場の職員の皆様に心より感謝いたします。

(道東事業所 大林 敏朗)

問い合わせ先:

有限会社 別海町酪農研修牧場
TEL 0153-77-1050 Fax 0153-77-1051
〒088-2576 北海道野付郡別海町西春別347-63
HP: <http://dairy-farm.net/>
メールアドレス dairy@aurens.or.jp

橋本優子が行く! Moo飲んだ? Moo食べた?

今回は、帯広市から車で40分程に位置する上士幌町の雄大な自然の中にある「十勝しんむら牧場」と『クリームテラス』本店を尋ねました。牧場の周辺は35haの放牧地が広がり、牧草を頼張りのびのび過ごす牛、山羊そして豚の姿が見られます。

十勝しんむら牧場は、1933年に富山県より入植し、1994年から放牧酪農を始めました。1998年に『草づくりコンクール北海道知事賞』を受賞、2006年に第2回『HAL農業賞』経営部門優秀賞および第3回『ユフさっぼろ農業賞』北海道知事賞・大賞を受賞されました。現在は牛160頭（うち経産95頭）、豚28頭を飼育されています。

2000年4月にミルクジャム製造を開始し、『一生続けられて且つ理想とする経営が放牧酪農であり、牧場の牛乳のおいしさをいかにして消費者に伝えるかを考えた結果、自家産牛乳を100%使用した製品を作り販売することに繋がった』と、同年6月に新村浩隆社長により「ク



売れ筋No.1のミルクジャム



ワッフルとスープカレーのランチセット

リームテラス」本店をオープンしました。

看板メニューの牛乳の美味しさを引き出したソフトクリーム、スコーン、ミルクジャムや生クリームをトッピングした焼きたてのワッフルは直営店でしか味わえない逸品。売れ筋No.1の牛乳を3分の1に濃縮して作られるミルクジャムは11種類と豊富なフレーバー、そのほかにも牛乳をはじめ飲むヨーグルトや国内では珍しい牛乳を20分の1に濃縮したクロテッドクリームなど20種類程が販売されています。メニューは主に浩隆さんと奥様で牧場の牛乳のおいしさを引き出せる乳製品を常々考案されているそうです。朝牧場で搾った牛乳をパイプラインで同場内に設立されている工場に直送し、毎日新鮮な牛乳を使用した製品をいただけます。

私が最初にいただいたのは牛乳とミルクティー。牛乳は非常に甘くてまろやか、ミルクティーは砂糖不使用とは思えないほど甘みがあり、本場スリランカ産の紅茶の香りが際立っており相性抜群でした。次にいただいたソフトクリームは非常に濃厚かつなめらかな舌触りで、口に入れた途端ふわっととろけ、ミルクジャムのモカを掛けてみるとミルクジャムのまた違った甘さとモカの香りが口いっぱいに広がります。さらに、ミルクジャムとクロテッドクリームがトッピングされたワッフルの生地は、外はサクッと中はふんわり。ミルクジャムと生地



新村社長とスタッフ



放牧中の牛たち

の甘さが濃厚なクロテッドクリームにより一層引き立ち、飽きのこない逸品でした。期間限定のメニューとして、春は桜の紅茶・スコーン・ミルクジャム、秋にはカボチャのワッフル、そして今時期でしたら8月いっぱいまでパイナップルを使用したパインワッフルとさっぱりした甘さにフルーティーな香りのパインアイスティーが味わえます。限定メニューは年によって違う味が楽しめるそうです。また今後は自家産豚肉のソーセージ・サラミ・ベーコンを店頭販売する予定です。

十勝しんむら牧場の製品は全国450店に卸されており、直営店は牧場内の本店と2007年開店した帯広駅構内エスタ店の2店舗。共進会場でも出店をしており、会場をより一層賑わせてくれます。しかし、直営店また本店でしか味わえないものも多々ありますので、是非足を運んでみてはいかがでしょうか？

連載 第10回

発情・排卵の同期化と定時授精(その1)

ジェネティクス北海道 顧問 ^{たかはし よしゆき} 高橋 芳幸
 昭和50年 北海道大学大学院獣医学研究科修士課程修了、
 農林省畜産局採用(農林技官)
 昭和51年 農林省日高種畜牧場勤務
 昭和58年 北海道大学獣医学部・助教授
 昭和61年 獣医学博士(北海道大学)
 平成10年 北海道大学大学院獣医学研究科・教授
 平成24年 北海道大学特任教授、名誉教授
 平成25年 現職

近年、各種のホルモン剤を投与して発情を特定の日に集中発現(同期化)させ、たとえ発情が観察できなくても排卵時期を同期化することによって一定の時間に人工授精を行う「定時授精」技術が広く利用されている。この技術を有効活用するためには、その原理と限界を理解する必要がある。そこで、今回は北米や欧州で広く活用されているプロスタグランジンF_{2α} (PGF_{2α}) と性腺刺激ホルモン放出ホルモン(GnRH)を用いた処置の基本となる「オブシンク(Ovsynch)」の処置について説明する。

PGF_{2α} 製剤を用いた発情の誘起

発情周期中には2~3回の卵胞ウェーブがみられ、2ウェーブでは2回目、3ウェーブでは3回目のウェーブの主席卵胞が成熟して発情を発現させるとともに排卵する(図1;連載第7~9回参照)。初回あるいは2回目のウェーブの主席卵胞は、その成熟に必要な黄体形成ホルモン(LH)の生産分泌が黄体から生産分泌される黄体ホルモン(プロジェステロン)によって抑制されているため、閉鎖退行する。しかし、適当な時期にPGF_{2α}を投与すれば、黄体が退行して黄体ホルモンの生産が減少・停止するため、初回あるいは2回目の卵胞ウェーブの主席卵胞は

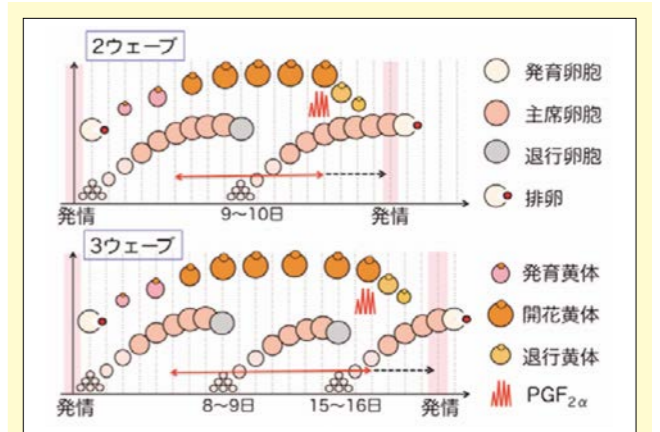


図1 発情周期における卵胞ウェーブと黄体の発育・退行
 卵胞ウェーブにみられる小卵胞の発育・動員は、2ウェーブ(上図)では排卵日と排卵後9~10日、3ウェーブ(下図)では排卵日、排卵後8~9日後および15~16日にみられる。黄体は、子宮内膜から生産分泌されるPGF_{2α}により、発情後15~18日から退行し始める。「←→」は、PGF_{2α}の投与により黄体が退行する時期(発情後6~16日あるいは6~17日)を示す。また、「破線→」は、PGF_{2α}を投与しなくても、子宮内膜から生産分泌されるPGF_{2α}によって自然に黄体が退行する時期を示す。

成熟、発情が誘起されるとともに排卵される。

すなわち、PGF_{2α}を発情周期1~5日目に投与しても黄体は発育途中で反応しないが、6~16日目に投与すると開花期黄体が退行する。ただし、発情周期の15~18日目になると子宮内膜からPGF_{2α}が生産されるので、PGF_{2α}製剤を投与しなくても黄体は自然に退行する(図1)。

また、黄体開花期でもPGF_{2α}の投与時期によって発情の発現時期が異なる。主席卵胞が選抜されて成熟に向かう時期にPGF_{2α}を投与すると、主席卵胞が速やかに成熟するため、2~3日後には発情が発現する。いっぽう、主席卵胞が退行、新たな卵胞ウェーブが始まった頃(主席卵胞が選抜される前)にPGF_{2α}を投与すると主席卵胞が成熟するまで時間を要するので、発情発現時期が遅れる(図2)。

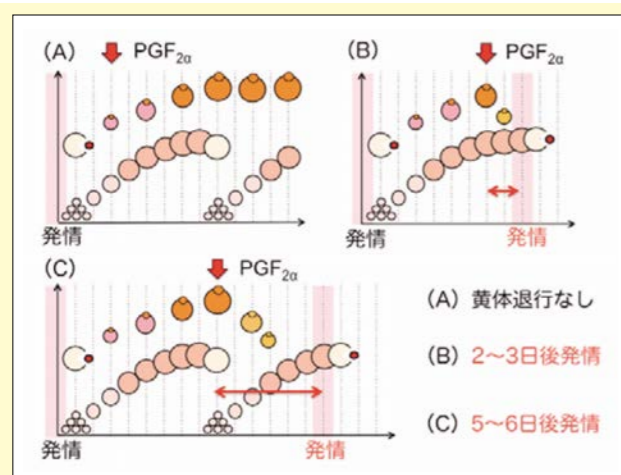


図2 PGF_{2α}の投与時期による発情・排卵時期の違い
 (A)PGF_{2α}を投与しても黄体は無反応(退行しない)。(B)PGF_{2α}投与の2~3日後に発情が誘起される。(C)PGF_{2α}投与の5~6日後に発情が誘起される。

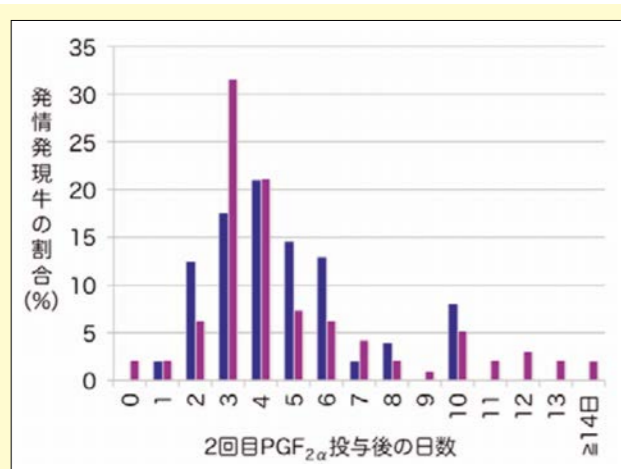


図3 PGF_{2α}投与後の発情発現時期
 分娩後の乳牛に対して14日間隔でPGF_{2α}を2回投与、2回目PGF_{2α}投与後の発情発現時期別の割合を示す。
 Gumen A et al(2012)とFricke PM (2015)のデータを基に作成。

PGF_{2α}を11~14日間隔で2回投与すると、約70%の牛は2回目PGF_{2α}投与の2~6日後に発情を発現する(図3)。

すなわち、PGF_{2α}を11日間隔で投与した場合、1回目投与が発情周期の1~5日目であった牛も2回目投与時はPGF_{2α}に反応する発情周期の12~16日目になっている。

また、1回目のPGF_{2α}に反応して2~6日後に発情が発現した牛もPGF_{2α}に反応する発情

周期の13~17日目になっている。

GnRHとPGF_{2α}を用いた発情・排卵同期化

上述のようにPGF_{2α}単独では発情を誘起できても発情発現時期にバラツキがみられる。発情発現時期のバラツキをなくし、排卵時期を一定の時間帯に集中させることができれば、定時に授精を行っても一定の受胎率が期待できる。そこで卵胞ウェーブを調節するオブシンク(Ovsynch)という処置が開発された。

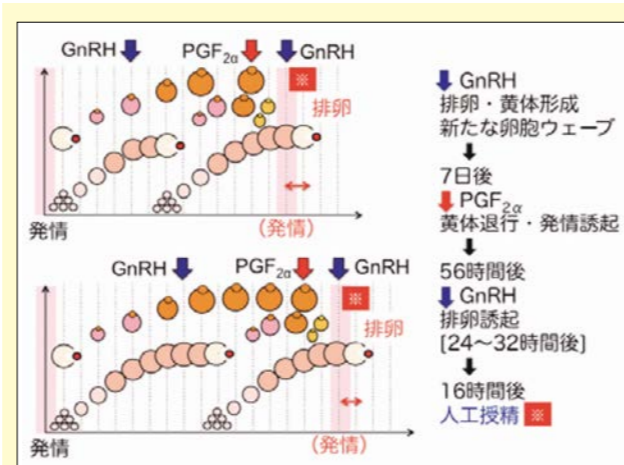


図4 オブシンク(Ovsynch)処置の例
 発情周期の5日目から処理を開始した例(上図)と発情周期の8日目から処理を開始した例(下図)を示した。

オブシンク-56 (Ovsynch-56) の処置 (例)

日	月	火	水	木	金	土
	9:00					
	GnRH					
	9:00		17:00	9:00		
	PGF _{2α}		GnRH	授精		

図5 オブシンク-56のホルモン投与スケジュールの例
 土曜・日曜の処置を避けて、月曜に1回目のGnRH、その7日後にPGF_{2α}、さらに2日後(56時間後)に2回目のGnRHを投与し、2回目GnRH投与の16時間後に人工授精を実施する例を示した。

オブシンク処置は、まずGnRHを投与して下垂体からの黄体形成ホルモン(LH)の分泌を促し、主席卵胞の排卵と新たな卵胞ウェーブ(GnRH投与の1.5~2.5日後)を誘起する。また、

GnRH投与の7日後にPGF_{2α}を投与して黄体を退行させ、主席卵胞の成熟と発情を誘起する。さらに、PGF_{2α}投与の2日後(56時間後)に再度GnRHを投与、成熟卵胞の排卵(GnRH投与24~32時間後)を誘起する。人工授精は、子宮に注入した精子の卵管貯蔵部への移送に必要な時間(8~16時間)を考慮して、GnRH投与の16時間後に行うと高い確率で受胎が期待できる(図4、図5)。

オブシンク処置の限界

オブシンク処置では、初回のGnRH投与により排卵を誘起して新たな卵胞ウェーブを誘起できないと、その後のホルモン投与による排卵同期化は期待できない(図6)。GnRHに反応して排卵が期待できるのは顆粒層細胞にLH受容体を有する主席卵胞である。

しかし、初回GnRH投与時に主席卵胞が排卵する確率は50~60%程度である(図7)。

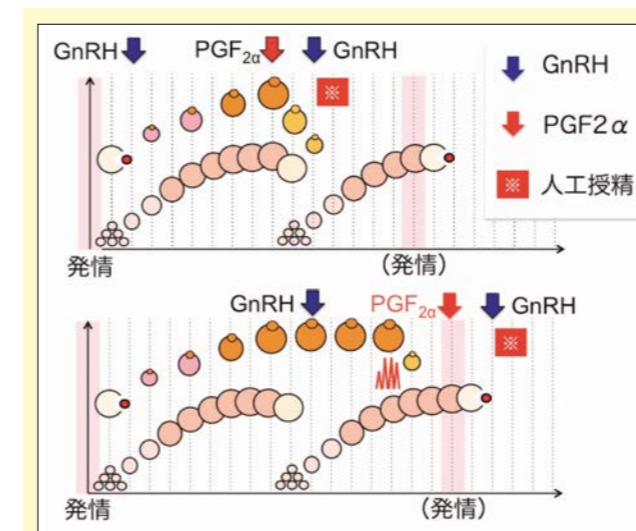


図6 オブシンク処置における初回GnRH投与により排卵がみられない例
 (上図)初回GnRH投与時だけでなく2回目GnRH投与時に主席卵胞がないため排卵を誘起できない。(下図)初回GnRH投与時に主席卵胞がないため排卵がみられず、かつPGF_{2α}投与の前に子宮からPGF_{2α}が生産分泌され、黄体が退行、2回目GnRH投与前に排卵するため、人工授精を行っても受胎しない。

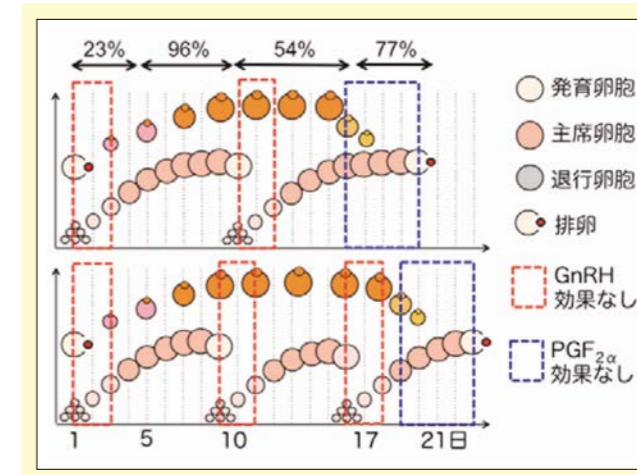


図7 発情周期の任意の時期にGnRHを投与した場合の排卵誘起効果
 図中の数値は、発情周期の1~4日、5~9日、10~16日、17~20日にGnRHを投与した場合の排卵率(Vasconcelos et al, 1999)。

また、初回GnRH投与によって排卵が誘起されると2番目の黄体が形成されるため、通常のPGF_{2α}投与で2つの黄体が完全に退行する確率は70~80%である。さらに、2回目のGnRH投与の24~32時間後に排卵させられる確率(約85%)を考慮すると、オブシンク処置の最終的な排卵同期化の確率は30~40%になる。

このようにオブシンク処理だけでは、発情・排卵同期化効果が低い。そこで、オブシンク処置の前に卵胞ウェーブを同期化する「プレシンク・オブシンク(Presynch - Ovsynch)」、黄体を持たない牛(排卵周期が回復していない分娩後の牛)にも効果が期待される「G6G」、「ダブル・オブシンク(Double Ovsynch)」などの処置法が開発されている(これらの処置法については、次回説明します)。

注目のカウファミリー 第31回

スクリーミング ビジョン オー ハイダ VG-88



今回は北海道猿払村の丹治智寛牧場で繁栄している「スクリーミング ビジョン オー ハイダ」ファミリーを紹介しします。丹治牧場は稚内市から1時間程西に車を走らせた日本最北端の村として知られる猿払村に位置し、放牧主体の飼養形態で酪農を営んでおります。当団では平成19年にニューヨーク州のオーロラリッジ牧場で繁養されていた早期オーマン娘牛の「スクリーミング ビジョン オー ハイダ」【写真1】と受精卵契約を行いました。その後、平成20年に優良遺伝資源造成事業としてハイダの「ソクラテス」による受精卵を導入し、丹治牧場にて2頭の雌牛が誕生し

ました。それが当ファミリーの血液を拓げるきっかけとなった「ピュアソウル ビジョン S ヘンリー ET」【写真4】と「ピュアソウル ビジョン S ヘレン ET」【写真7】であり、今日の丹治牧場の看板牛となり活躍しています。

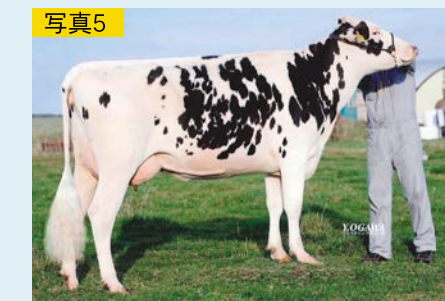
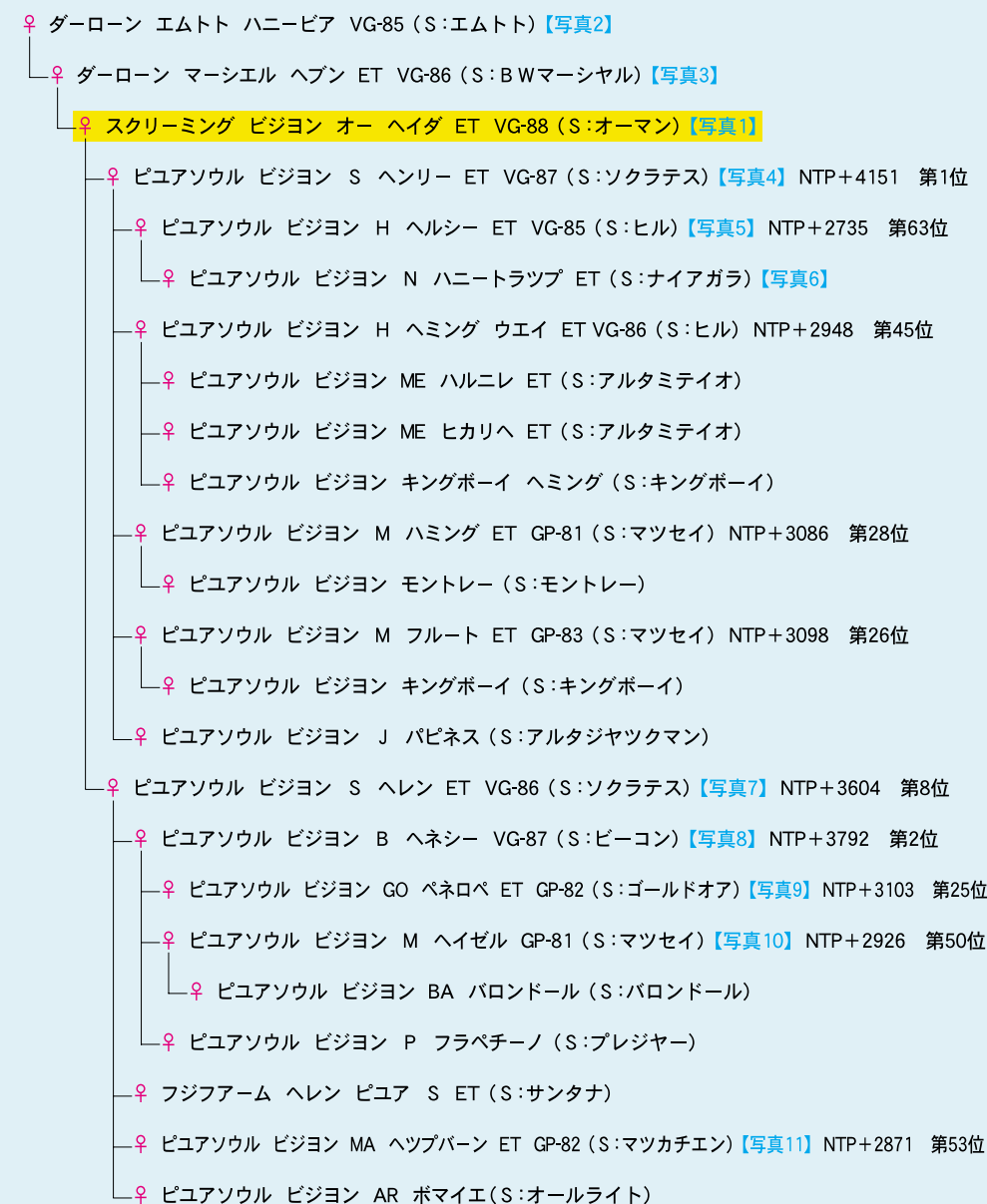
当ファミリーは乳脂肪の改良に定評があり、また中程度のサイズでありながら幅と深さに富んだフレームと底面が高く機能的な乳器を兼ね備え、長命性および繁殖性に優れていることも特長であります。当ファミリーの基幹牛であるハイダは2歳11ヶ月でVG-87を獲得し、9代連続VG以上を達成しました。ベストレコードでは乳脂率4.8%を記録、CTPI上位の実績もあり、60頭以上の娘牛を生産したエリートカウです。

ヘンリーとヘレンはハイダの特長を強く受け継ぎ、ファミリー譲りの高い乳成分率を発揮し、2011年初産分娩後の成績公表においてNTP上位100位以内に登場したことでエリートカウとしての頭角を現しました。その後も産次を重ねる度に順位を上げ、2015年8月の国内雌牛評価において遂にヘンリーが第1位に輝きました。

ヘンリーは資質形状に優れた乳器と理想的な乳頭配置を備えています。ヘンリーはヒルとマツセイによる産子を残しており、特にヒルの2頭の娘牛は付着強く底面の高い乳器を備え、3歳でVGを獲得しました。一方ヘレンは強靱な前駆と充実した肋が特長的です。ヘレンには未経産時に種雄牛造成を目的として当時早期のシヨツテル息牛として人気を博していたビーコンが授精され、「ピュアソウル ビジョン B ヘネシー」【写真8】が誕生しました。ヘネシーは充実した中駆に付着の高い後乳房を備えた機能的な雌牛で、彼女もまた高インデックスを発揮し、初産からNTP第36位にランキングしました。ヘネシーからは当ファミリーきっての好体型「ピュアソウル ビジョン GO ペネロペ」【写真9】や「ピュアソウル ビジョン M ハイゼル」【写真10】がNTP上位にランキングしています。丹治牧場から生産された当ファミリーの雌牛達は2016年5月の国内雌牛評価においてヘンリーが第1位、次いでヘネシーが第2位、更に第8位のヘレンを始めとして当ファミリーから10頭がトップ100位以内にランクインしています。既に10頭以上の雄牛が授精所へ輩出され、種雄牛としての活躍が期待されています。現在丹治牧場で活躍する当ファミリーは乳脂率4.0%以上の高い乳成分を発揮し、乳房が柔らかく極めて資質に優れ、体細胞数が低く乳房炎に罹患しにくいトラブルフリーな牛が多く見られます。繁殖性にも優れた丹治牧場の牛群の約30%を占めています。また、ハイダの血液は欧州でも繁栄しており、ドイツのNO.1ゲノミックヤングサイアである「シネマ」(父:シボレー)は当ファミリーより輩出されており、各国でエリートカウに交配されています。

ハイダファミリーは、トラブルが少なく経済損失が極めて低く、現代の乳牛改良に求められる資質を持ち合わせています。

系統図



平成28年度前期 新規現場後代検定実施種雄牛の紹介

当団では、黒毛和種種雄牛能力評価の為に公益社団法人全国和牛登録協会の和牛産肉能力検定現場後代検定法(以下:現場後代検定)による年間8頭の種雄牛の現場後代検定を実施しています。
平成28年度前期分の現場後代検定実施種雄牛を2回に分けて紹介させていただきます。

H黒-265 北花福

【キタハナフク】

黒原 5932	平成26年2月13日生	
得点84.1点	生産者:北海道 十勝育成牧場	
北乃大福	安福(岐阜)	安谷土井
	たにみ	谷美土井
ふみえ1	第1花国	北国7の8
	ふみえ	美津福



母「ふみえ1(全弟:第1花藤)」は、全兄が平成18年度全国肉用牛枝肉共励会で名誉賞を受賞しており、産肉実績でも3産目の去勢牛(父:北乃大福)で、A-5、BMS No.10、枝肉重量544kg、ロース芯面積69cm²のほか2頭が5等級を記録している高能力繁殖雌牛です。

その母に当団を代表する「北乃大福」を戻し交配した本牛は、前軀、品位、資質、骨締まりの良さを特徴とした脂肪交雑能力の改良に期待する田尻系種雄牛です。

H黒-274 桜茂勝

【サクラシゲカツ】

黒原 5956	平成26年10月7日生	
得点86.7点	生産者:北海道 (有)金川牧場	
勝早桜5	勝忠平	平茂勝
	なつ	安平
かさぶらんか2	百合茂	平茂勝
	むつひら	平茂勝



母「かさぶらんか2(父:百合茂)」は、父に「百合茂」、母の父に「平茂勝」を持ち、北海道育種価脂肪交雑順46位(平成25年3月評価)にランクした気高系高育種価繁殖雌牛です。

その母に当団の代表的種雄牛「勝早桜5」を交配することで気高系の血統の固定を図った本牛は、父「勝早桜5」の美点を引き継ぎ、体積、体伸、尻幅、資質に優れており、審査得点は、当団が現在繁養している種雄牛の中で、最高得点の86.7点を獲得し、産肉能力、増体能力、体型の改良に期待する種雄牛です。

生涯能力優秀雌牛に表彰楯を贈呈しました

家畜人工授精事業体協議会(JAAB)事務局

平成26年度まで、各家畜人工授精事業体より、検定記録と体型審査情報が以下の条件を満たした生涯能力優秀雌牛に、顕彰楯を贈呈していましたが、平成27年度より家畜人工授精事業体協議会(JAAB)として、国産種雄牛(会員所有牛)より生産され、以下の条件を満たした生涯能力優秀雌牛に対して、楯(写真)を贈呈し、国産種雄牛精液ご利用による雌牛生産に対する感謝をするとともに、日頃の飼養管理に敬意を表させていただきました。

平成27年度では、387頭がその対象となりました。おめでとうございます。



顕彰楯

都道府県別内訳(別表1)

都道府県	戸数	頭数
北海道	191	284
青森県	1	1
岩手県	10	11
宮城県	3	4
秋田県	1	1
福島県	2	2
茨城県	3	3
栃木県	8	8
群馬県	7	9
千葉県	5	5
東京都	1	1
神奈川県	1	1
新潟県	3	5
長野県	7	9
静岡県	2	4
愛知県	3	3
三重県	1	1
兵庫県	4	5
岡山県	2	2
広島県	1	1
徳島県	1	1
愛媛県	3	3
高知県	1	1
福岡県	4	5
熊本県	9	11
大分県	2	2
宮崎県	2	2
鹿児島県	1	1
沖縄県	1	1
都府県計	89	103
全国合計	280	387

顕彰条件

- 対象雌牛は、平成27年1~12月の間に乾乳報告があったもので、生涯乳量5万キロ以上、体型得点85点以上の検定牛
- 雌牛を飼養する検定農家

別表1. 北海道と都府県別の顕彰戸数および頭数 別表2. 顕彰対象牛の多い種雄牛(対象牛4頭以上の種雄牛)

種雄牛別内訳(全国)(別表2)

略号	父牛名号	頭数
JP3H03479	ロイレーン ジェスロ ET	49
JP3H53008	サンデイバレー ブルーブラッド ET	21
JP3H52304	レーガンクレスト ランツ ドミトリー ET	14
JP3H52603	クリーク BWM ダンデイ ET	12
JP5H52930	コムスター リウ`エレスト ET	12
JP5H52083	レデイスマナー ブラツク ボツクス ET	11
JP3H52585	ライスクレスト ヒルトン ET	10
JP5H51940	アルタジエン マンフレッド ノマド ET	10
JP3H52254	レーガンクレストBE ランツ デニス ET	9
JP5H52624	ファアオーラ BWM デキスター ET	8
JP3H51853	サンデイバレー バレット ET	7
JP4H52353	ミスター サリー オリー	7
JP3H51821	ノリーレーク マーティ フロスト ET	6
JP3H52611	オービー ケルビン ET	6
JP4H52583	CE シャルネス ET	6
JP3H52677	FL ロニー アデイ ET	5
JP3H52078	ヘンカシーン トツプ ドリーム ET	4
JP3H52276	サンデイバレー ビツグ ガイ ET	4
JP3H52323	ゴールドンオークス アラン ET	4
JP3H52371	HHG ホツトシヨツト ET	4
JP5H52428	ハツピーライブ BW アニー ET	4
その他		174
合計		387

2016年 北海道 ブラックアンド

ホワイトショウ

～全共の感動を、もう一度～

毎年春に行われる全道規模の酪農イベント——「北海道 ブラック アンド ホワイトショウ」は、5月28日—29日に安平町で開催されました。同じ会場での、昨年秋の全日本共進会以来の行事ですが、未だにその興奮と北海道勢の素晴らしい活躍が感じさせられる雰囲気でした。

好天気に恵まれた二日間に、全道から出品された252頭の乳牛(ホルスタイン種237頭、ジャージー種15頭)が、22のクラスに分けられて、小椋茂敏審査員(上士幌町 酪農家)のもとで、静かに競り合いを繰り広げました。

グラント・チャンピオンの栄冠を獲得したのは、「TMF ナディール アット アンナ エコー」(ジュニア3歳級1位&インターミディエイト・チャンピオン)でした。昨年秋の北海道ナショナルショウのリザーブ・グラント・チャンピオン、及びその直後の第14回全日本ホルスタイン共進会の名誉賞であった彼女は、7ヶ月経った今春、ますますパワーアップして充実した本能で、さらに素晴らしい形状、付着の乳器を誇り、ショウカウとして再びその魅力を存分に発揮しました。

当団種雄牛では、「スパークリング」24頭(未経産17頭、経産7頭)、「アイオーン」11頭(未経産7頭、経産4頭)、「スプラツシユ」2頭(未経産1頭、経産1頭)、「サンデイ スター」(経産)2頭の娘牛が出品されました。うち、「スパークリング」の娘牛は、第5部と第6部で1位を取り、続けて未経産のチャンピオン戦で見事に勝って、それぞれジュニア・チャンピオン及びリザーブ・ジュニア・チャンピオンを獲得しました。第6部の

3位も「スパークリング」の娘牛で、この3頭は、昨年の全共で優等賞に入賞した(当時は第1部と第2部)のに続き、今年も全道B&Wに先だって、既に十勝B&Wショウ、石狩スプリングショウ、および本別B&Wショウでジュニア・チャンピオンを取り、素晴らしい成長ぶりを示し、「スパークリング」の実力をアピールしました。

また、後代検定娘牛の部—「ゲッツオブサイア」において、未経産の部(同一種雄牛の産子3頭/組)では、「スパークリング」娘牛群が上位3位を独占し、4位の「アイオーン」およびほか2組の「スパークリング」と合わせて、全て当団種雄牛の娘牛で会場内を埋め尽くしました。経産の部(同一種雄牛の産子2頭/組)では、「スパークリング」が3位と5位、「サンデイ スター」が4位になりました。

特筆すべきなのは、ジュニア・チャンピオンとグラント・チャンピオン(インターミディエイト・チャンピオン)、および第4部と第13部の1位を出品した清水町(有)田中牧場で、昨年の本BWショウに続き、再び「プレミア・エキジビター(最優秀出品者)」の栄冠を手に入れたことです。

出品者の皆様、大変お疲れ様でした。

当団種雄牛の主な成績は下記のとおりです。(各部5位まで)

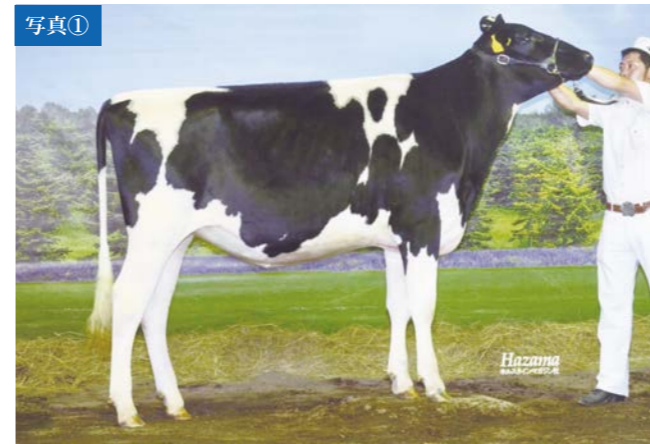


当団展示ブース

・第4部未経産ミドルクラス(15~18ヶ月)

第2位 ハーラ ヒンペル テンプター スラツシユ ET (父:スプラツシユ)(写真①) 佐呂間町/原田 良一氏 出品

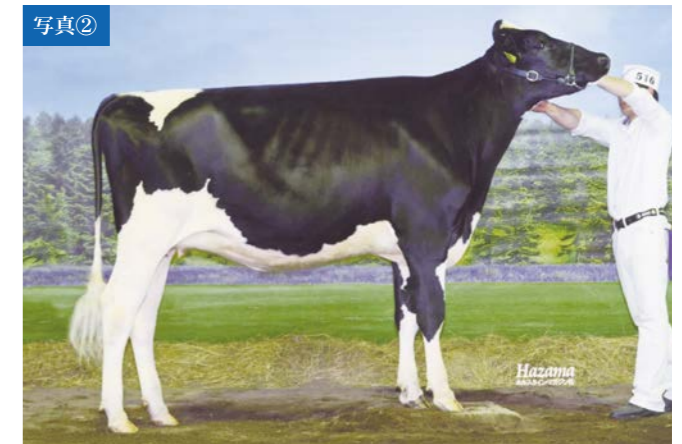
写真①



・第5部未経産シニアミドルクラス(18~21ヶ月)

第1位&ジュニア・チャンピオン TMF ウオーカーコール スパーク セスナ (父:スパークリング)(写真②) 清水町/(有)田中牧場 出品

写真②



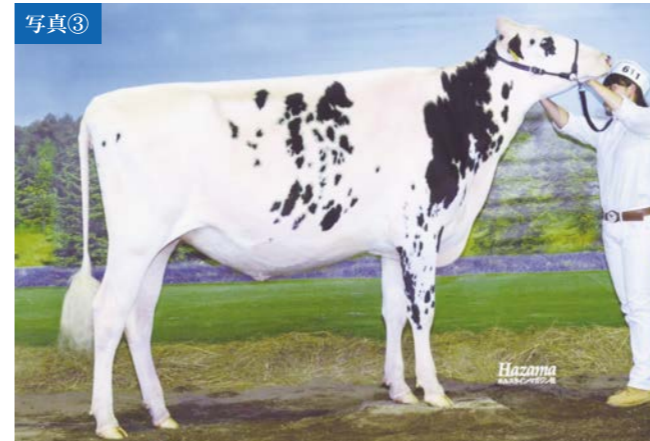
・第6部未経産シニアクラス(21~24ヶ月)

第1位&リザーブ・ジュニア・チャンピオン オークリーフ MBB ソフィア (父:スパークリング)(写真③) 江別市/(学)酪農学園フィールド教育研究センター 出品

第3位 アミダファースト スパークリング サクラ(父:スパークリング)(写真④) 陸別町/(有)編田牧場 出品

第5位 ローヤルランド ライアンス F アイオーン(父:アイオーン) 大樹町/木村 達也氏 出品

写真③



写真④



写真は本別町B&Wショウ ジュニア・チャンピオン

・第9部シニア2歳クラス

第5位 サンシャイン アイオーン フラワー ロード RED (父:アイオーン)

音更町/山田 哲義氏 出品

・第11部シニア3歳クラス

第5位 コマンダー スパーク メリーサン (父:スパークリング)

大樹町/三木 隆志氏 出品

・第12部4歳クラス

第5位 ウオーカー スターダム アイリス (父:アイオーン)

せたな町/田中 秀一氏 出品

・第14部成牛クラス(6歳以上)

第3位 メドーブリッジ ロース シヤトル(父:サンデイ スター) (写真⑤) 弟子屈町/(株)メドーブリッジホルスタインズ出品

写真⑤



・第17部ジュニアゲッツオブサイアー

第1位 (父:スパークリング)



写真⑥
第1位(写真⑥)アマダ スペシャル GG プリン 陸別町/(有)編田牧場出品
TMF ウオーカーコール スパーク セスナ 清水町/(有)田中牧場出品
アマダ ファースト スパークリング サクラ 陸別町/(有)編田牧場出品

第2位 (父:スパークリング)

スカイハイ MK スパークリング 稚内市/白崎 紘希氏出品
ビューティ スパークリング マークソン 稚内市/鎌仲 優也氏出品
グリーンエム スパークル バンカー 音更町/宮浦 香行氏出品

第3位 (父:スパークリング)

エルムレーン SF スパークリング エクセレンシー 熊本県/松島 太一氏出品
ローマンヒル ビューティアー ブラチナ 江別市/(有)小林牧場
オークリーフ MBB ソフィア 江別市/(学)酪農学園フィールド教育研究センター出品

第4位 (父:アイオーン)



写真⑦
カチノー ローラ アイオーン ET 帯広市/北海道帯広農業高等学校出品
スギ テンプトレス アン 広尾町/三蔵法師&杉 出品
ローヤルランド ライアンス F アイオーン 大樹町/木村 達也氏出品

・第18部シニアゲッツオブサイアー

第3位 (父:スパークリング)



写真⑧
ベルベット スパークリング フロンティア 清水町/(株)浅野牧場 出品
コマンダー スパーク メリーサン 大樹町/三木 隆志氏出品

第4位 (父:サンデイ スター)



写真⑨
エルムレーン サンデイ トレーシー 恵庭市/(有)福屋牧場 出品
メドーブリッジ ロース シヤトル 弟子屈町/(株)メドーブリッジホルスタインズ 出品

ご協力を頂いた出品者および関係者の皆様方に深く感謝を申し上げます。
(写真:(株)ホルスタインマガジン社)

ホルスタイン種 各チャンピオン

【グランド・チャンピオン&インターミディエイト・チャンピオン】

TMF ナデイル アット アンナ エコー
(清水町/(有)田中牧場)

【リザーブ・グランド・チャンピオン&リザーブ・インターミディエイト・チャンピオン】

グローリーランド バツスリリー ハツドリ
(別海町/酒井 保幸氏)

【ジュニア・チャンピオン】

TMF ウオーカーコール スパーク セスナ(写真②)
(清水町/(有)田中牧場)

【リザーブ・ジュニア・チャンピオン】

オークリーフ MBB ソフィア(写真③)
(江別市/(学)酪農学園フィールド教育研究センター)

【シニア・チャンピオン】

スウィートネス アドベント エントリー ET
(上土幌町/スウィートネスシンジケート)

【リザーブ・シニア・チャンピオン】

OK エアレイド ライオネル
(清水町/大久保 大輔氏)

☆ 役員人事 ☆

6月21日に開催された第44回通常総会ならびに理事会におきまして、役員辞任に伴う補選が行われまして、下記のとおり選任されました。

- 1、 辞任役員
前 副理事長 北 良治 前 理事 向井正農夫 前 監事 水本隆夫
前 専務理事 松尾誠之 前 理事 岩本勝男
- 2、 就任役員
理 事 長 佐藤俊彰 理 事 向井地信之 理 事 小椋茂敏
副理事長 瀧澤義一 理 事 高橋勝義 理 事 柿林孝志
副理事長 山本勝博 理 事 石橋榮紀 理 事 守部公博
副理事長 山口哲朗(新) 理 事 佐々木環 理 事 佐藤正昭(新)
専務理事 石村正志(新) 理 事 仲山 浩 理 事 澤田礼二(新)
常務理事 榎谷智史
- 監 事 佐久間富雄 監 事 末永仁宏 監 事 中嶋隆司(新)

☆ 構成会員のお知らせ ☆

6月1日付けて、下記のとおり構成会員が変更となりました。

入社:北海道ホルスタイン農業協同組合
退社:株式会社 ジャパン ホルスタイン ブリーディング サービス

平成28年度(第32回) 家畜(牛)人工授精に関する講習会修業試験合格者

平成28年5月9日から6月3日の間実施した牛に係る家畜人工授精に関する講習会で、次の方々が修業試験に合格されました。

合 格 者

阿部 皓平	斧木祐太郎	佐々木郁己	高橋 佑次	幡井 武彦	諸頭 杏介
浦野 榛樹	菊地 翔太	下元 翔太	高畑 佑	平澤 瑞穂	山崎 大輝
遠藤真由子	国井 宏諭	新名 良弘	富田 浩介	藤田 善紀	
大留 正宏	紺野 達也	菅原 将太	仲川小百合	森重 雅也	
尾崎由香里	齋藤 卓	高野 潤	中村 拓郎	森田 勝	